

(((伝建群だより)))

編集・発行 桐生市総合政策部伝建群推進室推進係
Tel 0277-46-1111(内線346,639)
Fax 0277-43-1001
E-mail denkengun@city.kiryu.gunma.jp

平成22年 5月15日発行 春号 8

平成22年度の予定

1. 伝建地区の保存計画の作成

伝統的建造物群保存地区に指定する場合、どのような保存地区にするかを決めなければなりません。そのため、平成21年度より保存計画の内容を検討しています。保存計画の内容については、地元の皆様の意見を聞きながら保存審議会に諮り、決定します。

2. 伝統的建造物群保存地区保存審議会の開催

伝建地区に係る保存計画や様々な検討課題を検討するため、保存審議会が設置されています。保存審議会には、大学の先生や桐生市文化財調査員、建築士会などの学識経験者や区長さんや町会長さんなどの関係地域の代表者、それと群馬県桐生土木事務所や桐生市議会の関係行政機関の代表者が集まり、よりよいまちづくりのために審議します。

保存地区・保存計画に関する説明会

本町一、二丁目にお住まいの方、土地及び建物の所有者の方を対象に、過日行いました「伝建まちづくり意向調査」の実施結果や保存計画(案)についての説明を行いました。

第1回 4月6日(火) 午後6時30分から 本町一丁目集会所にて
第2回 4月8日(木) 午後7時から 本町二丁目横山町集会所にて

なお、説明会に参加できなかった方へは資料を配布させていただきましたが、届いていない方や必要な方は、伝建まちなか交流館へお越しいただくか、電話にてご連絡ください。

伝建まちづくり意向調査の結果

まちづくりに対する意向を調査し、保存計画作成する際の参考とするために実施しました。

実施期間 平成21年12月7日(月)から12月25日(金)まで
回収率 回収率48%、地区内配布数260通、地区内回収数124通
意向調査の結果(持ち家の方の意見、一部抜粋) 借家の、建築年代別によっても多少意見が異なります。

<< 建物の高さ >>

2階までとした方がよい	52%
3階までの高さならよい	40%
その他	7%
無回答	1%

借家の人の方が2階までという意見が多い。戦後建築の人の方が3階までという意見が多い。

<< 建物の屋根形状 >>

2方向以上の勾配屋根が良い	56%
勾配屋根が基本、他もOK	36%
その他	8%

持ち家の方も借家の方も同様の結果
戦後建築の人の方が他の形状の屋根もやむを得ないという意見が多い。

<< 建物の色 >>

茶系や無彩色等の色がよい	63%
茶系以外でも派手でなければ	33%
その他	4%

持ち家の方も借家の方も同様の結果
戦後建築の人の方が派手な色でなければ、という意見が多い。

本町通り交通社会実験とアンケート調査の結果

伝統的建造物群保存地区指定に向けた取り組みに伴い、「本町通り(県道桐生田沼線)の沿道景観の向上」と「安心して歩きやすい道づくり」のための電線類地中化、歩道設置等を目指した道路整備計画を検討するため、2月20日から28日までの9日間、交通社会実験を行いました。

この交通社会実験は、平成21年度に「本町通り道路検討会」で検討してきた道路整備案を試験的に現地に設置して、市民の方に体験していただきながらご意見を伺い、効果や影響を評価したものです。

実験期間中、皆様のご理解とご協力いただきお礼申し上げます。

アンケート調査の結果(一部抜粋)

<<歩行者の通行は?>>		<<自動車の通行は?>>		<<無電柱化は?>>	
通行しやすくなった	22%	通行しやすくなった	4%	やった方がよい	46%
ある程度通行しやすくなった	28%	ある程度通行しやすくなった	11%	出来るならやった方がよい	29%
今までと変わらない	19%	今までと変わらない	29%	どちらともいえない	12%
通行しにくくなった	13%	通行しにくくなった	32%	やらなくてもよい	8%
無回答	18%	無回答	24%	無回答	5%
歩きやすさを感じる人が半数いた。		多くの人が通行しにくさを感じた。		無電柱化に賛成する声が多かった。	

全国の伝建地区の紹介

次の2地区が、新たに重要伝統的建造物群保存地区になり、全国で87地区になります。



西予市宇和町卯之町は平成21年12月8日に選定告示されました。

西予市宇和町卯之町地区(愛媛県西予市宇和町卯之町)

宿場町、門前町の性格を併せ持つ宇和島藩の在郷町(約4.9ha)

近世の地割りが良く残り、宇和島街道沿いに、開口部以外を塗籠める棧瓦葺の重厚な町家が良く残る。町家は、屋根の妻を正面に向ける妻入りと、平を正面に向ける平入りが混在し、格子や持ち送り、飾り瓦等の意匠に特徴があります。

保存地区は、近世前期に成立した在郷町を地区の範囲とし、宿場町、門前町の性格を併せ持つ。近代以降に町の中心が南に移動したため旧の中心部が保存され、江戸時代からの地割りや重厚な町家等を良く残しています。



桜川市真壁は平成22年4月16日に文化審議会が文部科学大臣に答申しました。

桜川市真壁地区(茨城県桜川市真壁町)

戦国期城下町に起源を持つ筑波山北麓に栄えた在郷町(約17.6ha)

仲町と下宿町を南北に結ぶ「御陣屋前通り」に蔵造の町家が集中し、仲町や上宿町には、真壁造の町家や平屋建の住宅などが残り、敷地の奥には煉瓦造や石造の蔵も残る。間口の広い敷地では主屋脇に薬医門や袖蔵を建てて塀を巡らすなど、多様性のある町並み景観がみられます。

保存地区は、戦国期を起源としつつ、近世前期に成立した町割りを良く残す。町並みには、近世後期から近代にかけての多様な伝統的建造物が残り、筑波山北麓に栄えた在郷町の歴史的風致を今日に良く伝えています。

伝建制度、まちづくりや伝建群だよりについて、ご不明な点などがありましたら、伝建まちなか交流館または市役所伝建群推進室まで、お気軽にお問い合わせください。

～お問い合わせ先～ 伝建群推進室 TEL: 0277-46-1111 内線346・639

FAX: 0277-43-1001

伝建まちなか交流館 TEL&FAX: 0277-22-1122

～伝建群を目指して～

伝統と創造 粋なまち 桐生